



スポーツボランティアの交流情報紙

SVニュース

発行 SV2004 (宮城県仙台市)

発行日 2009年6月15日 (月1回発行)

私たちはスポーツボランティア活動を応援します

今月の特集

1. 「東京マラソン・ボランティア特集」 1P～8P
2. プロ野球ボランティアの楽しさ
～ 札幌ドームボランティア 9P
3. ボランティア情報紹介 10P
4. SV2004紹介 11P

東京マラソン・ボランティア特集

この特集記事は「笹川スポーツ財団 web マガジン“sfen”から引用 <http://sfen.jp/>」させていただきました。

【東京マラソン EXPO2009】

今年で3回目を迎える国際的な大規模マラソン「東京マラソン 2009」の開催を直前に控えた、2009年3月19日から21日までの3日間、東京マラソン 2009のフルマラソンのフィニッシュ会場でもある東京ビッグサイトにて、「東京マラソン EXPO2009」が開催されました。東京マラソン 2009の参加ランナーの受付を行うほか、広い会場内に80以上の企業ブースが並び、スポーツグッズなどの展示即売会や各種イベントが行われ、ランナーと観客にとって有益な情報が集結。来場者の予想数が7万4,000人以上の大規模な前夜祭ともいえるべきビッグイベントです。このようなEXPOは、ニューヨークシティマラソンやロンドンマラソンなどの国際的な大会でも盛大に開催されていますが、日本ではまだ歴史が浅いそう。東京マラソンが回を重ねていくことにより、日本でもEXPOの文化が定着していくことが期待されているとのこと。

さて、3日間にわたる東京マラソン EXPOで欠かせない存在だったのが、ボランティアの皆さん。参加ランナーの受付から始めて、参加記念Tシャツの配布、ヘルプデスク、広報補助、そして東京マラソン 2009の大会当日に参加するボランティアへのウェアの配布まで、のべ1,400人以上のボランティアがそれぞれの担当場所で会場をサポートしました。

3月19日、EXPOの初日は、オープニングセレモニーからスタート。来場した石原都知事はスピーチの中で、「東京マラソン 2009では、1万3,000人のボランティアの方々が、見えるところ、見えないところを支えてくれている。ランナーとボランティアの関係が生み出す、人と人の一体感というのは本当に素晴らしい」と述べ、ボランティアが、東京マラソンにとってかけがえのない存在であることを強調していました。

テープカットも無事に終わり、いよいよ参加ランナーの受付がスタート。10時のオープン前から、たくさんのランナーたちが列を作り、会場前は何とも言えない熱気に包まれています。参加ランナーがEXPO会場に入り最初に行くのが、東京マラソン 2009への参加受付。いわばEXPOでの参加受付は、ランナーにとって東京マラソン 2009の始まりなのです。開場と同時に、次々と入ってくる参加ランナーたち。自分のナンバーに該当するところへ並び、受付を行います。ずらりと横に並んで参加ランナーの受付に応じるボランティアの皆さんからは、口々に「おはようございます!」「がんばってくださいね!」という声が。一気に、会場があたたかい雰囲気包まれるのを感じます。



写真: 笹川スポーツ財団提供

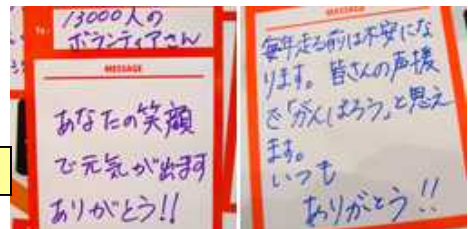
身分証による本人確認があったり、参加ランナーに渡すナンバーカードがなかなか見つからなかったりと、時間のかかる場面も見受けられましたが、その間に他のボランティアが「今回は初めてですか？」「どちらからいらっしゃいましたか？」と声をかけて、現場の空気を和ませていたのも印象的でした。ランナーたちも、「絶対完走を目指します！」「初めてだからちょっと不安なんです」と、ボランティアの皆さんとの会話を楽しんでいる様子。ランナーとボランティアの心の通ったやりとりの数々を、身近に感じることできたひとときでした。

参加受付を終えたランナーは場所を移動し、参加記念Tシャツと参加賞セットを受け取ります。ここの対応も、ボランティアの役割。参加ランナーのナンバーカードを確認してから、各々が手渡して記念参加Tシャツと参加賞セットを配布していきます。当日用意されたTシャツは、全部で3万8,000枚。さらにTシャツのサイズも7段階に分かれているので、間違っただけのを渡さないよう注意しなければなりません。列に並び参加ランナーが増えるに従い、場内は騒然となりましたが、変わらないのはボランティアの皆さんの笑顔。

「参加賞セットが少なくなってきたから補充お願い！」「さん御本人で間違いはないですね？」と、はきはきした対応が目立ちます。ボランティアが笑顔で作業をしていると、ランナーのあせりも落ち着くのか、楽しそうに会話をしながらTシャツを受け取る光景が多く見られました。

EXPO会場を奥へと進むと現れるのが、東京マラソン2009に当日参加するボランティアのウェア配布会場。「ボランティアの方を相手にする作業は初めてなので、新鮮ですね」と微笑みながら、担当のボランティアの皆さんが作業をこなしていきます。ここでボランティアに配布されるのが、大会当日用のウェアとクオカード、その他活動によって必要な配布物一式。ボランティアスタッフウェアのカラーは4種類あり、給水・給食は青とオレンジ、救護は赤、コース整理やその他の活動は黄色と、ボランティアの活動ごとに分かれています。渡す前に確認が必要です。大会当日に初めてボランティアをするという人も多く、いろんな疑問や質問も飛び交っていましたが、双方がボランティアであるという連帯感もあり、ボランティア同士で会話が盛り上がっているようでした。

写真：笹川スポーツ財団提供



ボランティアウェア配布会場入り口の横スペースには、メッセージボードが設置されており、ウェアを受け取ったボランティアの方々が、それぞれ当日の活動に対する意気込みを記入されていました。

「いよいよもうすぐですね、がんばってくださいね！」というボランティアの皆さんの激励の声がいたるところから聞こえてきた東京マラソン EXPO2009の3日間。ステージでは連日さまざまなイベントが催され、企業ブースも多くの人でにぎわいました。直前に迫った本番へと向かって、みんなの気持ちがひとつになっていくなか、ボランティアスタッフのサポートを受け、3月21日20時、東京マラソン EXPO2009は大盛況のなか幕を閉じたのでした。

【東京マラソン2009、いよいよスタート！】

日本で初めての大規模都市マラソンとして、2007年にスタートした東京マラソン。1回目、2回目が大成功のうちに幕を閉じ、そして3回目の開催を迎える現在、その名は広く認知され、幅広い年齢層の方々からたいへんな人気を集めています。また、大会を支えるボランティアの活動が回を重ねるごとに注目を集める、非常に意味のある大会でもあります。東京マラソンは、ランナーと応援者、そしてボランティアの心が重なり合う、まさに「東京がひとつになる日」と言えるのかもしれません。

2009年3月22日、3回目の大会として開催された東京マラソン2009。増え続ける応募者数に応えるべく、定員を5,000人増の3万5,000人に設定したものの、結果的には26万人を超える応募があり、参加者の倍率はなんと7.4倍！いかにこの大会が多くの方々から支持を集めているかを裏付ける結果となりました。取材時、「東京マラソンは私にとって、参加できるだけ幸せな大会なんです」と話してくれたランナーがいましたが、そういう気持ちで大会に臨むランナーの方々の想いが、毎年こうして、東京マラソンを成功に導いているように思えてなりません。

総勢 3 万 5,000 人のランナーが東京の中心部を駆け抜ける東京マラソン 2009。そして、それをサポートするボランティアスタッフの数は、総勢 1 万 3,000 人。そのボランティアは、大会 3 日前から開催される「EXPO 会場」、東京都庁周辺の「スタート」、東京ビッグサイトまで続く「42.195km のコース」、日比谷公園の「10km フィニッシュ」、東京ビッグサイトの「マラソンフィニッシュ」の 5 か所に配置されました。さらに、コースに携わるボランティアは、スタートの新宿からフィニッシュの東京ビッグサイトまでの全 9 ブロックに分かれ、3 万 5,000 人のランナーが気持ち良く、また無事に完走できるよう、給水や給食、清掃活動等でサポートし、マラソンを笑顔で盛り上げ、ランナーに声援を送り続けました。

【 東京都庁周辺「スタート」 】

大会当日、まず取材に向かったのは東京都庁周辺の「スタート」。天気予報は思わしくありませんでしたが、この時点では雨も降らず、なんとか曇り空をキープ。スタートは 9 時 10 分ですが、7 時半に会場に到着したときにはすでに、たくさんのランナーがひしめきあい、各メディアの取材やインタビューもあちらこちらで見られ、参加者のテンションは最高潮！都庁周辺は異様な盛り上がりを見せていました。



写真: 笹川スポーツ財団提供

この場所でランナーの手荷物を預かる「手荷物預かり」のボランティアは総勢 743 名。都庁前の公園通りに沿って、番号ごとに分かれてずらりと待機している様子は圧巻です。ランナーの手荷物をナンバーカードを照合しながら次々と預かっては、後ろのトラックに積み込むまでのサポートをするボランティアスタッフたち。番号間違いや中身がこぼれるなどのトラブルが起きる可能性もあるため、迅速ながらも丁寧な作業が要求される重要な活動です。手荷物を預かる際に、「がんばってくださいね!」「いってらっしゃい!」と声をかけるボランティアの明るい笑顔に、最初はやや緊張していたランナーたちも「がんばるよ!」「いってきます!」と、リラックスした表情で応えていました。

続いて新宿中央公園へ場所を移すと、こちらはボランティアによるミールサービスの真っ最中。ミールサービスとは、スタート前のランナーに食べ物（フード）や飲み物（ドリンク）を提供するというもの。フードサービスのブースでは、クリームパン 3,000 個、アンパン 2,000 個、バナナ 2,500 本、オレンジ 1,000 個が準備され、ボランティアの手によって次々とトレイに並べられていきます。ドリンクサービスのブースでは、アミノバリューと水、ソイジョイを配布。



写真: 笹川スポーツ財団提供

次々とブースを訪れるランナーたちに、「どうぞ、オレンジですよ」「こっちにあんぱんもありますよ！」と笑顔で手渡ししています。スタート前の大事な時間帯に摂取するフードやドリンクは、ランナーの直接的なエネルギーのもとになるもの。特にパンはすごい人気で、出発1時間前にはトレーの底が見えるぐらいに少なくなっていました。

またまた場所を移して、次は案内誘導係のボランティアスタッフが活動するエリアへ。遠くからでも見つけられる、大きな三角帽子が目印です。案内誘導係の活動は、決められた範囲内を巡回し、ランナーを誘導すること。見ていると、一人の案内誘導係のもとへ、ひっきりなしにランナーが道や場所を訪ねてきます。スタート時間が近づくにつれ、場所が分からず焦り出すランナーも増え、場内にピリリとした空気が漂う場面も。そんなときでも案内誘導係は、迅速に、かつ分かりやすく、正確な情報をランナーに伝えきと伝えていきます。大きな身振り手振りで場所を説明するため、迷っていたランナーもすぐに場所が把握できるようで、最後にはみんな「ありがとう！」の言葉を残し、各々の目的場所へと急いで行きました。

次は出発係のボランティア。参加ランナーの数が3万5,000人と非常に多いため、スタート地点の整理はとても重要な活動です。出発係は、「整列係」「入口係」「誘導」の3つに分かれて活動を進めます。整列係がブロック名をアナウンスし、ブロック内にすべてのランナーがおさまるよう、前から詰めてもらうように誘導。入口係は、3人一組で植え込みと植え込みの間に立ち、ランナーが誘導されてきたら、ブロック名をアナウンス。誘導係はランナーの導線を作るべく、誘導を行います。スタート直前の騒然とした雰囲気の中、ボランティアスタッフの冷静かつ迅速な行動が、ランナーたちを無事にスタート場所まで導いていきます。そうして9時10分、3万5,000人のランナーが無事にスタートを切ることができたのでした。スタート地点のボランティア活動にはその他、プレスの受付や撮影エリアへの誘導を行う「広報」、専門家の指示のもとで活動を行う「医療救護」も。各ボランティアは与えられた持ち場で、東京マラソン2009のスタートを精一杯サポートしていました。

【日比谷公園「10km フィニッシュ」】

続いて向かったのは、10kmのフィニッシュとなる日比谷公園。9時半ごろにトップのランナーがフィニッシュを迎え、その後続々とランナーたちが戻ってきます。どのランナーもみんな、くたくたになりながらも、なんとも気持ち良さそうな、晴れ晴れとした表情。満足感と感動が、ランナーの全身から伝わってきます。10kmフィニッシュでのボランティアスタッフは、総勢560名。「入賞者管理係」「完走者誘導係」「ランナーサービス」「手荷物返却」「総合案内」「救護」「マッサージ」「広報」「記録」「会場誘導」に分かれて、それぞれの活動を行いました。

ボランティアの皆さんが、どのように活動しているのかをランナーの目線で見ると、取材班はまず、フィニッシュラインへ。そこでは、たくさんのボランティアスタッフが並び、「がんばって！」「お疲れさまです！」「完走おめでとうございます！」とありったけの声をだしてエールを送っている場面に遭遇。そう、この声援こそが、東京マラソン参加ランナーの元気の源。「くじけそうになったとき、ボランティアの方の励ましの声が聞こえてきて、もうちょっと頑張ってみようと思えた」という感想が、去年も山のように寄せられていたのです。ランナーとボランティアが一体になっているこの光景こそが、もしかしたら、東京マラソンでいちばんの見せ場なのかもしれません。

さて、無事に10kmのフィニッシュを迎えた上位のランナーは、フィニッシュと同時にボランティアスタッフから着順札を首にかけてもらいます。この活動は、学校単位で参加している高校生ボランティアの役目。「どうしよう、ドキドキするー」といいながら、自分が着順札を渡すべきランナーの到着を待っている姿は、なんとも初々しく、きらきら輝いて見えました。



写真: 笹川スポーツ財団提供

そうこうするうちに、続々と10kmのランナーたちがフィニッシュを迎えていきます。完走者はボランティアの誘導に従い、日比谷公園の中へ。そこで向かえてくれるのが、ランナーサービスのボランティア。まずは入り口で、アミノバリューや水、ソイジョイを受け取ります。走り終わってのどがカラカラのランナーたちは、その場で水分補給。こんなに美味しそうな顔はなかなか見られないかも、というぐらいの表情で、各々ドリンクを飲み干していました。続いて計時チップはずしのエリアへ。ここでは、足につけていた計時チップを、ボランティアスタッフがペンチではずしてくれます。計時チップはずしが終わると、次は完走メダル。ボランティアスタッフからランナーの首へ、完走メダルがかけられます。「完走おめでとうございます！」「お疲れさまでした！」のボランティアの声に、喜びのあまり抱きついたり、握手をしたり、一緒に記念撮影をする光景もちらほら。ランナーとボランティアが一緒になって完走を喜びあう、感動的な場面になりました。



写真: 笹川スポーツ財団提供

その後、ボランティアスタッフからフィニッシャータオルとリンゴやオレンジの入った袋を受けとったランナーは、スタート地点で預けた手荷物を待ち時間も無くボランティアスタッフから手渡ししてもらい、ようやくすべてが終了。ランナー目線で見てみると、フィニッシュしてからずっと、ボランティアの皆さんによるサービス、「おめでとうございます」や「おつかれさまでした」の声、一緒に手を取り合って喜んでくれる笑顔に囲まれ続けるわけで、どのランナーもみんな、これ以上ないぐらいに嬉しそう。ちょっと、ランナーの方々がうらやましくなってしまう光景でした。日比谷公園ではそのほか、走り終わったランナーがマッサージのサービスを受けている姿、足が痛くなってしまったランナーが救護係に救護所へ誘導してもらっている姿、総合案内で場所の案内を受けている姿など、ボランティアとランナーのさまざまなやりとりが見られました。

【 東京ビッグサイト、マラソンフィニッシュエリア 】



写真: 笹川スポーツ財団提供

15時過ぎ頃、最後にたどり着いたのが、マラソンのフィニッシュ地点である東京ビッグサイト。とにかくここでは、人の多さにびっくり！フィニッシュして休憩するランナー、ランナーの帰りを待ち続ける家族や友人の姿、その合間で活動を続けるボランティアスタッフたち…。朝のスタート地点の光景とはまた違い、42.195kmを走り終えたランナーたちの興奮や熱気に満ちた、独特の空間ができあがっています。朝から続いた曇天も徐々に崩れはじめ、曇り空が雨空に変わり、15時半ごろには雨と風の強さも随分激しくなってきましたが、そんな天候ももろともせず、東京マラソン2009の盛り上がりはいよいよクライマックスへ。42.195kmを見事に走り通したランナーたちが、達成感あふれる表情で、東京ビッグサイトへ次々と帰ってきます。



写真: 笹川スポーツ財団提供

10km フィニッシュ地点と同様、東京ビッグサイトでも、ボランティアスタッフは「計時チップはずし」「完走メダル配布」「フィニッシャータオル配布」「給水・給食」「会場誘導」「総合案内」「救護」「手荷物返却」に分かれて会場をサポート。フィニッシュ地点で活動を行うボランティアは、ふりしきる雨にも負けず、続々と到着するランナーたちに「おめでとうございます!」「おつかれさまです!」とありったけの声と笑顔で迎えていました。また、さすがにここでは、足の痛みを訴えるランナーや体調を崩すランナーも見られ、救護係のボランティアスタッフが車椅子を押しながらサポートしていた姿も印象的でした。東京マラソンのボランティアのなかで唯一、ずっと笑顔でいるわけにはいかないのが救護係。健康に関わることだけに責任も重大です。医師やトレーナーの指導のもと、てきぱきと活動にいそしんでいました。

最終的な出走者数は3万4,971人、完走者数は3万3,916人。完走率97%という非常に高い結果を出し、東京マラソン2009は大成功のうちに終了。16時20分ごろから、各ボランティアスタッフが徐々に活動を終え、後片付けにとりかかり、17時半にはほとんどのボランティア活動が終了。こうして、ボランティアスタッフにとっての東京マラソン2009も、無事に終了を迎えたのでした。この1日を振り返ってみると、どのエリアにもあふれていたのが、ボランティアスタッフの作業中の真剣な表情と、ランナーを前にしたときの元気な笑顔、そして、走っているランナーを応援する、ひたむきなまなざしと声援でした。

「ボランティアの方々がいるから、僕たちは安心して走っていただける。ボランティアの存在なくして東京マラソンは語れません」と話してくれたランナーに、「応援するつもりでボランティアに参加したけれど、一生懸命に自分と戦っているランナーの姿を見ていたら、逆にこっちが励まされてしまいました。感動をありがとう、と、ランナーのみなさんに心から言いたいです」と話してくれたボランティアスタッフ。お互いがお互いを助け合い、励まし合い、喜びと感動を分かち合う…。ランナーもボランティアも、垣根を捨てて混ざり合い、参加者全員の心がひとつになる。東京マラソン2009のボランティア活動を追いかけて感じたのは、スポーツボランティア活動の、なにものにもかえがたい楽しさ、素晴らしさでした。



写真: 笹川スポーツ財団提供

そしてまた、なによりも印象的だったのは、今回話を聞いたボランティアスタッフがみんな、「また来年も、絶対にボランティアに参加したい!」と言っていたこと。その表情はどれも、来年の東京マラソン2010の開催が今から待ち遠しくなるような、心強く、頼もしいものだったのでした。

この記事の転載にあたり、笹川スポーツ財団の皆様には格別のご配慮をいただきました。心より感謝申し上げます。

東京マラソンボランティア・キャプテン 飯塚 寿代

第三回となった「東京マラソン 2009」のボランティアに参加させていただきました。そこで今年の私の視点から、経験したこと、感じたことを書かせていただきます。

3回連続のスタート担当、前回に続きキャプテンを仰せつかったの参加でしたが、今回は慣れた「手荷物預かり」を離れスタート拠点補佐として、案内誘導係担当となりました。スタートエリアの東京都庁周辺が、実は「2階構造」になっていることは、通い慣れた人でもなかなか知らないことです。新宿駅から都庁に向かってただまっすぐ、アップダウンもなく歩いてきただけなのに、西口から歩くと1階に、南口から歩くと2階につながっているのです。これぞ「都庁マジック」!!! このエリアは手狭なため、ランナーの導線を、着替え・手荷物預け・ミールサービスを1階、スタートエリアを2階と振り分け限られたスペースにさまざまなランナーサービスが計画的にレイアウトしています。ランナーはそれぞれのナンバーカード(ゼッケン)によって「自分の手荷物を預けるトラックの号車」と「スタートするブロック分け」が指定されているため、時間内に適時移動しなくてはなりません。複雑な地理的条件に加え、立ち並ぶ40台もの手荷物運搬用11トントレーラー、3万5000名のランナーと、2000名余りのボランティア、多くの大会関係者・スタッフ・・・スタートが「東京マラソンの中で唯一、全ランナーが一時に集結する拠点」であることから容易に想像ができると思いますがとにかく、人、人、人の渦・・・まさに、あたり一面を埋め尽くす人の群れの中を迷わず移動することは、まず不可能といえます。案内誘導係は、その中でランナーの皆さんの「定番にして最大の疑問」・・・「私のトラックはどこ」「私のスタートブロックにはどう行けばいい」「トイレはどこ」の3つに対しひとりずつきめ細かく対応するという、とても過酷なミッションを背負って活動します。

実はこの「案内誘導係」は、昨年の第2回大会から設置されたポジションです。この担当がいなかった1回目の大会、手荷物預かり係として参加していた私自身の経験ですが、ひとりのランナーの質問に対応し始めたら「私も」「私は」「私も」・・・と芋づる式に質問攻めになりとうとう本来の活動であったはずの「手荷物預かり袋」に触ることなく、活動を終了してしまいました。混雑が激しく、複雑な地理条件のスタートエリアで、ランナーの皆さんには「尋ねる人」が必要だったので見当たらないために「とりあえず近くにいた」私をはじめ手荷物預かり担当の元に、ランナーの質問が集中したのです。それらを考慮され、取り入れられたのが「案内誘導係の配置」でした。



写真: 笹川スポーツ財団提供

昨年初めて設置された案内誘導係をすぐ横で見ていて気になったのは「腕章や首から提げたガイドマークだけではあの人込みの中では目立たないため、せっかくの案内誘導係の存在が有効活用されていない」ということでした。その反省点から「みんなに所在を掴んでもらう」ために、「三角のとんがり帽子」を着用することを私からご提案させていただいたところ、快く採用していただきました。こうして、オレンジ色に「Information」のマークが書かれた特製帽子が誕生しました。

この帽子を都民広場周辺と、日曜日の原宿以上の混雑となる手荷物預かりトラックの周辺に配置し、活躍しました。行き交う人の波の中に、オレンジ色のとんがり帽子がひょこひょここと浮かび、移動しているのが遠目にもわかるのです。実は朝いちばんに、初めて目にした「三角のとんがり帽子」を前に、抵抗感を示すボランティアの方がおられました。それは無理もないことで、2000名近くいるスタートエリアボランティアの中で、とんがり帽子を着用したのはわずか30名ほど。ランナーにエリアが開放される前、ボランティアだけが集まっている時間帯でも十分目立ちます。

そんなメンバーの皆さんに笑顔で話しかけ、ユーモアを交えてほんの少しの気休めをお伝えしたり、反対側を通りかかった三角帽子の群れに呼びかけて、お互いに手を振り合ったりして、「人前で目立つ」ことに対する羞恥心を忘れていただくよう、配慮させていただきました。そうするうちに、同じ姿の仲間をみて着用の意図を理解し「ああ、こういうふうに見えるなら」と納得して頂けたようです。結果として、ランナーの皆さんにこの帽子を目印にして案内誘導係を探していただけたことはもちろんですが、予想外の効果として、活動を終えたボランティアの皆さんから「なぜリーダーも同じ色の帽子なんだ」と言われ、その言葉から「帽子によって仲間の所在地」を確認しながら活動していたことが伺い知れました。

実は今回、スタートブロックは「安心感を与える人になる」という活動目標を掲げておりました。今回の三角帽子着用というアイデアが、主目的であったランナーの抛り所のためだけでなく、ボランティアの皆さんが所在を確認しあうアイテムにもなり、それによって心の支えを、安心感を得ていたことを知り、結果として活動目標に向けても生かされたことが、大変喜ばしい結果となりました。

今回の帽子着用は一定の成功であったとは思いますが、マニュアル化が進み、システムチックに活動が行われるスタートの他の活動に比べると、まだまだマニュアル整備などに改善の余地があるように思っています。年々「東京マラソンに対する注目度」が高まってきたことによって、また新たな問題点も浮かんできましたので、それらに対する修正にも、大いに配慮すべきだと感じています。特に、案内誘導係は「持つべき情報量」が大変多く、1回の説明会とマニュアル配布のみでは、一般参加のボランティアメンバーにはかなり過酷な活動を強いてしまいがちです。

そこでボランティアの目線から、受け止めやすいマニュアル整備をもっとやってゆかなくてはならないのでは、という反省が強くなりました。ボランティアに行える領域に限りがあるのは事実ですが、それでも可能性を与え、意見に耳を傾けてくれるボランティアセンターと笹川スポーツ財団の方々には、感謝の気持ちでいっぱいです。約半年前からのマニュアル整備、様々な準備段階に参加させていただけたことは、大変貴重な経験となりました。

ボランティアに参加することで得るもの・・・それは本当に様々ですが、キャプテンを仰せつかり、ボランティアの目線と事務局の目線、両方を感じながら考えをめぐらせることによって、ただ当日、その場に出向いて活動する以外の本当に多くのことを、自分の中に刻むことができたように思います。それもすべて、挑戦する機会を与えてくださった笹川スポーツ財団、東京マラソン事務局、そして何より「また来年も一緒にやりたいですね」と言ってくださった一般ボランティアのメンバーや、リーダーの皆さんが温かく、力強く支えてくださったおかげであることに違いありません。

ランナーがスタートした後に解散したメンバーの、「リーダー感謝の集い」で私をみつめてかけよってくれたリーダーさんの、苦楽を共にしたキャプテン仲間の、笹川スポーツ財団の皆さんの・・・その「充実した笑顔」こそが私が東京マラソンで得た「宝物」です。

ちなみに、大会前に行われる「東京マラソンEXPO」から参加するために、会社には目的を隠して有給休暇を申請しました。大会終了後、実はその有給の目的が東京マラソンのボランティア参加であったことを告げると、上司から「なんで東京マラソンに参加するの?」と咎めるためだけでなく、好奇心を向けて尋ねてくれました。私は、奇麗事に聞こえることを承知で、正直に答えました。「一年分の『ありがとう』のチャージをするためです」と。大会を成功させたいという思いと、支える誇り。それが活動の原動力となり、微力ながらもランナーの力になり逆にランナーの皆さんの「笑顔」と「ありがとう」に、心癒され・・・

この一日に受けた温かいぬくもりで、これから1年、やさしい気持ちになれるんだと思います。そしてまた来年の東京マラソンでチャージして・・・きっと、こんな循環が続くのだと思います。このことを正直に話したので、来年からの有給取得は、正々堂々と「東京マラソンです」と告げることができそうです。

東京マラソンの変遷

東京都と日本陸連が日本最大規模の都市マラソンを開催するため協議を重ね、2007年から開催されています。都庁のある新宿から皇居・日比谷・銀座・浅草などコース上には見所も多く年々人気を呼びランナー・ボランティアの参加数も増加しています。

ランナー数	2007年	30,870人	2008年	32,426人	2009年	34,971人
ボランティア数	約	13,000人				

ボランティアの主な活動

東京マラソン EXPO 2009:ランナー受付、会場整理、参加記念Tシャツ渡し等

大会当日:ランナー誘導、給水・給食、沿道整理、荷物預かり、完走メダル渡し等

プロ野球ボランティアの楽しさ（寄稿）

札幌ドームボランティア 鈴鹿 敏之

札幌ドームは札幌市南東部の豊かな緑に囲まれる羊ヶ丘の一角に位置しています。ドームは世界で初めて、ひとつの施設で野球とサッカーの両方の使用を可能にした移動式天然芝サッカー場「ホバリングサッカースタジアム」となっており、その移動には8時間かかります。ドーム展望台も国内初で53mの高さからアリーナ全景はもちろん、札幌市街・はるか石狩湾、夕張岳まで広がる大パノラマが楽しめます。前置きが長くなりましたが私は(そのドームで)北海道日本ハムファイターズのボランティア活動をしており、今年は300人近くが登録し一緒に活動しています。

<参加の動機と活動>

幼馴染の友人に三年前に再会し長野在住時にオリンピックのボランティアに参加していたことを聞きました。その後二年前にその友人から日本ハムファイターズのボランティアと一緒に参加しないかと誘われ、自分も元々ボランティアには大変興味がありましたので参加することにしました。

活動の内容

1. 車いすのお客様の補助
2. 入場券チェック（場内インナーゲート）
3. 来場者の案内
4. リサイクルポストで分別回収
5. イベント補助・販売業務・来場者プレゼント（サンプリング）等

こうした活動を一試合約60名がシフトで担当しています。

<活動で感じている楽しさと自慢>

全く知らない人たちと活動を通じて助け合ったり支えたりし、同じ苦労・感動・達成した喜びを味わうことが出来て、人間関係も豊かになり自分も成長し、心が磨かれていく素晴らしさを楽しんでいます。また、ここが自慢といえるのは、札幌ドームでいち早くごみの分別を行い再資源化に取り組んでいることで、去年は名古屋のチームボランティアからも質問され、参考にしたいとのことでした。活動自体はリサイクルポストにお客様自身にゴミの分別をお願いし実行していただいています。

また、チームや観客、ボランティア同士の交流も楽しいものです。昨年、10回参加記念として坂元投手とツーショットで写真撮影しサインを頂いたことや、今年オープン戦で試合前の国歌斉唱を60人ほどのボランティアで行いました。事前の練習は30分ほどでしたが全員がひとつになって素晴らしい合唱ができて、感動と喜びを味わうことができました。

ファイターズは女性ファンの応援が他球場では考えられないほど多いと思います。その黄色い声がドーム内に響き渡り盛り上がりは最高ですし、特に稲葉ジャンプは壮絶で見ごたえがあるためボランティア中でも、自分もジャンプしそうになります。年配の方、子供達を含めた家族連れがおおいため年齢層が広いことも他チームとのファンの違いになっている気がします。

これは余談ですが、ドーム内の「がんこおやじ」のカレーは安くて上にじゃがいもがゴロリとあっておいしいお勧めメニューです。

<これからの夢>

現在は仕事の合間の休日に活動していますが、将来は環境問題・エコ活動のボランティアとしても活動に参加できたらと思っています。

FROM 札幌

北海道マラソンボランティア募集

8月30日、秋の早い北海道では夏の終わりともいえる時期に恒例となった「北海道マラソン」が開催されます。一般市民も参加できるフルマラソンに今年も8,000人が走る予定とのこと。今年で23回目を迎える伝統のある大会ですが、最近のマラソンブームを反映して参加者が増加、大会自体を支えるボランティアも広く募集するようになりました。その募集情報が下記となっています。

北海道マラソンボランティア募集 <http://www.hokkaido-marathon.com/volunteer/>

マラソンのボランティアといえば今回特集している「東京マラソン」があまりにも有名ですが、今回の北海道マラソンでは、東京マラソンでボランティアリーダーの養成のための研修を担当している笹川スポーツ財団と、北海道マラソン組織委員会、さっぽろ健康スポーツ財団との共催で、初めて北海道で養成研修を実施することになりました。今後もこうしたマラソンボランティアを中心として、リーダーの養成が全国に広がることは、他のスポーツのボランティア活動にも大きな影響を与えていくのではないのでしょうか。

ボランティア・リーダー研修告知 <http://www.hokkaido-marathon.com/volunteer/leader.html>

FROM 湘南

湘南国際マラソンのボランティア募集

2009 湘南国際マラソンでもボランティア募集がスタートしています。その数は参加選手20,000人に対し2,400人。フルマラソンともなればスタートからゴールまでの距離が長い分どうしても活動内容が多岐にわたり、その結果多くのボランティアのサポートが欠かせないようです。この大会のホームページでみると大会前日の準備作業を除き、当日は「コース誘導」「スタート誘導」「フィニッシュ管理」「駅/会場間誘導」「シャトルバス乗り場」「会場内案内」「記録補助」「救護」「給水」「総合案内」「関門」「荷物置き場」「参加賞渡し」まで、一部専門的なものも含めて実に多様なものとなっています。このような活動では必然的にリーダーやその場で意思決定をしたり、迅速に対応できる人やシステムが重要と考えられます。そのことも含めて事前の研修会も計画されているようです。

湘南国際マラソンボランティア募集 <http://www.shonan-kokusai.jp/archives/volunteer/>

FROM 東京

インフルエンザとスポーツ

親しい東京のボランティア仲間から、先日まで拡大し大きな話題となった新型インフルエンザへの対応の状況について情報をいただきました。それによるとホームゲーム開催時には「チームスタッフがマスクを着用」「観戦時のマスク着用の推奨」「コンコース上にアルコール消毒液を設置」などの取り組みを行っているそうです。この5月は関西を中心に広がりを見せ影響の拡大が懸念されましたが、幸い気温の上昇とともに落ち着きを取り戻しつつあります。ただし、油断は大敵、こうした感染症に詳しい方のお話しでは、今後冬に向けて改めて流行することも予想され、何より途中で変異し毒性が強まることが一番心配とのことでした。日ごろの安全と衛生への対応(危機管理)について、引き続き準備と注意をしていきたいものです。

FROM 宮城

泉ヶ岳アウトドアスポーツ2009

アウトドアスポーツといえば本来サッカーや野球なども含まれるのかもしれませんが、本格的な山を舞台にしたスポーツイベントが仙台市の近郊にある「泉ヶ岳」を舞台に今年も開催されます。種目としては「山岳マラソン」「トレッキング」からマウンテンバイクのレースまでさまざま、そしてその運営に私たちSV2004のメンバーも含め、たくさんのボランティアが参加します。いわば開かれた空間、天候が心配ですがいわゆるプロスポーツのボランティア活動とは違った人とのふれあいが楽しみです。

泉ヶ岳アウトドアスポーツ2009 ページ <http://www.spf-sendai.jp/event/outdoor.html>

昨年の報告はSV ニュース 08年6月号に掲載 http://blog.canpan.info/sv2004/category_5/2



SV2004について

【誕生の経緯】

SVとは、文字通り「スポーツボランティア」の略であり、1998年からスタートした「ブランメル仙台」(現在はJ2ベガルタ仙台)のボランティアや2001年の国体、2002年のワールドカップ宮城大会のボランティア経験者の有志が集まり、幅広いスポーツをボランティアとしてサポートする目的で2004年に発足しました。

役割 (ミッション)

スポーツをより楽しくコーディネートし、ネットワークを通じて、環境改善にも取り組むことでスポーツの振興と、スポーツに関わる人々の社会的認知を高めることに貢献します。

私たちはスポーツのボランティア活動は「楽しく」あるべきだと思います
そのため、ボランティアと運営組織、ボランティア同士のコミュニケーションを大切にします
思いをともにする人々とのネットワークを構築します
活動するボランティア環境の改善、そしてエコ活動にも取り組みます
サポートするイベントが継続しよりよいものになるようサポートします
スポーツボランティアの活動が多くの人に理解し知っていただけるよう活動します

活動 (アクション)

活動の記録・報告はSVホームページをご覧ください

スポーツ全般のコーディネート活動 … 楽天イーグルス・仙台89ERSボランティア組織立ち上げサポートなど
スポーツ及びボランティアのセミナー活動 … 接客・エコ・救命・災害・コミュニケーション・入門セミナーなど多数
スポーツに関する調査・企画・提案活動 … ボランティアアンケートの実施など
スポーツ情報発信活動 … SVニュース、ホームページからの情報発信など
スポーツネットワーク・交流活動 … 全国スポーツボランティアとの交流会の開催、東北スポーツボランティアサミットの開催
スポーツ環境改善活動 … チーム・マイナス6%との連動・エコステーションの普及取り組みなど

会員募集中！自主企画も含めたSV活動全般に参加するSV会員と
活動趣旨に賛同するサポート会員があります

【入会方法】

SV会員 … 年会費1,000円 (年度は4月～翌年3月となります)

サポート会員 … 年会費2,000円

お支払い方法…郵便振込み 郵便口座 18190-25930651 SV2004まで(振込み料はご負担願います)

または、SVが主催するイベント会場にて入会を受け付けます。(イベントはホームページでご案内します)

申し込み先 郵送の場合 〒980-0811 仙台市青葉区一番町4丁目1-3 仙台市市民活動サポートセンター SV2004

レターケースNO.50 (必ずレターケースNOをご記入ください)

メールの場合 izumita@dm.mbn.or.jp FAX 022-274-1469

申し込み書はホームページよりダウンロードできます <http://www.miyagi-sports.net/sv2004/>

多くのチームでボランティアを募集中です

女子サッカーリーグボランティア < 各チームの公式ホームページより >

1部リーグ

【東京電力女子サッカー部マリーゼ】 うつくしまスポーツルーターズ <http://www.rooters.jp/02sosiki/>

【浦和レッドダイヤモンズレディース】 <http://www.reds-ss.com/steward/index.html>

【ジェフユナイテッド市原・千葉レディース】 ボランティアページ

http://www.so-net.ne.jp/JEFUNITED/tools/cgi-bin/view_news.cgi?action=view&nid=4549

【日テレ・ベレーザ】 <http://www.verdy.co.jp/attendant.html>

【アルビレックス新潟レディース】 ボランティアページ <http://www.albirex.co.jp/support/volunteer.html>

【スペランツァF.C.高槻】 ボランティアページ <http://www.speranza-fc.net/kouenn/volunteer.html>

【INAC神戸レオネッサ】 ボランティアページは見つけれませんでした。

【岡山湯郷Belle】 ボランティアニュース

<http://www.yunogo-belle.com/index.php?query=%A5%DC%A5%E9%A5%F3%A5%C6%A5%A3%A5%A2&amount=0&blogid=1>

2部リーグ

【ASエルフェン狭山FC】 ボランティアページは見つけれませんでした。

【大原学園J's SRA 女子サッカークラブ】 ボランティアページは見つけれませんでした。

【清水第八ブリアデス】 ボランティアページ <http://www.sdh-1978.com/>

【伊賀フットボールクラブくノ一】 ボランティアページは見つけれませんでした。

【バニーズ京都SC】 ボランティアページは見つけれませんでした。

【福岡J・アンクラス】 ボランティアページは見つけれませんでした。

【ルネサンス熊本フットボールクラブ】 ボランティアページは見つけれませんでした。

【ジュ ブリーレ鹿児島】 アシスタントクラブページ http://www1.ocn.ne.jp/asahina/12_asi/12_asi.html

(注意) 内容は09年6月07日段階のもので、各チームの都合により変更される場合がありますのでご了承ください。

THANKS < 今月号のSVニュースの発行に対しご協力いただいた皆様、ありがとうございました。 : 敬称略・順不同 >
 笹川スポーツ財団の皆様 飯塚 寿代 鈴鹿 敏之 大谷 光正 渡辺 英樹

**スポーツボランティアの前向きな情報(募集・活動報告など)
 を募集いたします。経験をいかし、成功事例を学ぶ場として
 SVニュース活用願います。(提供先は下記に記載)**

編集後記

感染する力の強い病気というもある種の自然災害といえるのでしょうか、この4～5月の新型インフルエンザの流行はさまざまな分野に大きく影響を与えました。幸運にも気温が高くなる季節ということで下火にはなりましたがここから学ぶことも多かったと思います。情報の過大な内容による感染防止関連グッズの品切れや、感染者への過剰な反応、あげくは生活機能が麻痺してしまうような様々な規制まで私たちの国の弱さと強さの両方を見たような気がしました。

今回特集した「東京マラソン」をはじめスポーツのイベントには、たくさんの人々が集まります。決して過剰になることなく適切な危機管理の体制を作ることは重要ですし、その中でボランティアの位置づけ・役割にも配慮が必要だと思えます。そうしたベースを作った上で中越地震の後、スポーツの選手が被災地を訪問したり、チャリティマッチを開催してそこにいる人々を元気づけた経験を忘れないようにしたいものです。「スポーツがある幸せ」を大切に。

このSVニュースはSV2004の公式ホームページでもご覧になれます。 <http://www.miyagi-sports.net/sv2004/>

スポーツボランティア活動に関する情報をお寄せください。

情報提供先 izumita@dm.mbn.or.jp